

# 小山市立博物館 博物館だより

2017  
8.15

# 65

ラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」登録5周年記念

第69回企画展

## 古代の製鉄遺跡群

— 渡良瀬遊水地周辺の大地に刻まれた歴史を探る —

平成29年10月21日(土)～12月3日(日)



乙女北浦遺跡出土鉄製品

下野・下総・上野・武蔵の四ヶ国（現在の栃木・茨城・群馬・埼玉県）が接する関東平野の中央部は、本州最大の湿地帯である渡良瀬遊水地が所在し、また多くの河川や湿地帯が集中する低地帯です。この地域では主に9世紀（平安時代前期）に稼働した、数々の製鉄関係の遺跡が発見されています。それらの中でも下野・下総の国境周辺に所在する遺跡に着目し、周辺地域の歴史的な特徴を考えます。この地域では続く10世紀に、藤原秀郷や平将門など、後世の武士に崇められた「兵（つわもの）」たちが駆け巡りました。彼ら兵の登場と製鉄遺跡群との関連について展望し、郷土小山の歴史はもとより、渡良瀬遊水地周辺地域の魅力の再発見につながればと考えております。

〔休館日〕10/23(月)・27(金)・30(月)、11/6(月)・13(月)・20(月)・24(金)・27(月)

〔開館時間〕9時～17時(入館は16時30分まで)

〔入場料〕大人200円(100円)、大高生100円(50円)、中学生以下無料。

※( )内は20名以上の団体料金。平成29年度の車庫美術館の半券で、大人100円、高・大生50円に割引

※11/3(金)〔文化の日〕・23(木)〔勤労感謝の日〕は無料。

〔関連事業〕申込みは10/11(水)から電話で、先着順。(TEL 0285-45-5331)

●記念講演会①「奈良・平安時代の製鉄関連遺跡－栃木県の調査事例を中心に－」

講師：(公財)とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター 整理課長 津野仁氏

10/29(日)13時30分～15時 当館視聴覚室 定員50名(無料)

●記念講演会②「征夷事業と坂東－川戸台遺跡の発見から－」

講師：茨城大学非常勤講師 内山俊身氏

11/19(日)13時30分～15時 当館視聴覚室 定員50名(無料)

●関係史跡見学会

11/9(木)午前部は午前9時、午後部は午後1時、博物館出発。

川戸台遺跡(古河市)、金山遺跡(小山市)など企画展関係の史跡を巡ります。

定員各20名(無料。所要約3時間。ほとんど車窓からの見学です。)



渡良瀬遊水地周辺航空写真  
国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所提供

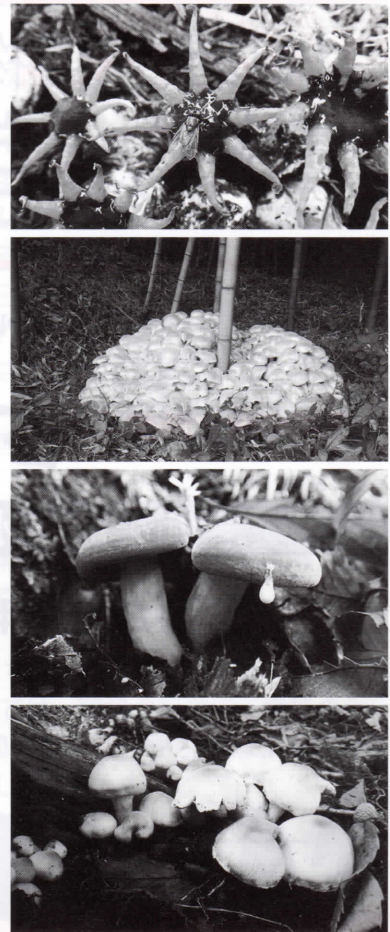


# キノコの世界

【開催期間】 平成29年7月22日(土)～8月27日(日)  
【開館時間】 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
【入館料】 無料  
【休館日】 7月24日(月)・28日(金)・31日(月)  
8月7日(月)・14日(月)・21日(月)・25日(金)

雨が降った後、庭や公園、雑木林の地面や枯木をよく観察すると、色々なキノコが生えていることに気がきます。キノコは食品や薬などとしても利用されていますが、他の生きものを分解したり、共生を通じて植物の生長を助けたり、自然界では欠かすことのできない重要な働きをしています。

今回の展示では、栃木県内で見つかり名前が付けられた「アカヒトデタケ」や一つの株が100kgにもなることがある「ニオウシメジ」、栃木県民にとっても人気のある食用キノコ「チチタケ」、地味な色をしています猛毒の「ニガクリタケ」、クモを殺し、その体を養分にして生える「クモタケ」なども展示します。普段の生活の中で少しでも視点を変え周囲をよく見ると、野外で、商店で、家庭でさまざまなキノコに出会えます。今回の展示が、実は身近なキノコの世界に目を向けるきっかけになればと考えています。



写真は栃木県立博物館提供 上から：アカヒトデタケ、ニオウシメジ、チチタケ、ニガクリタケ

## 新しい講座はじめました

### 前期講座「火起し体験」

今年度は前期講座として5～8月の第3日曜日に、「火起し体験」を実施しました。

火起し体験は、毎年4～5月にかけて行われる学校との連携事業「歴史学習」(小6生対象)で、小山通史の展示見学とともにマイギリ式の火起し体験を実施しているものです。数あるプログラムの中でも特に子供たちの興味を引く体験の一つです。

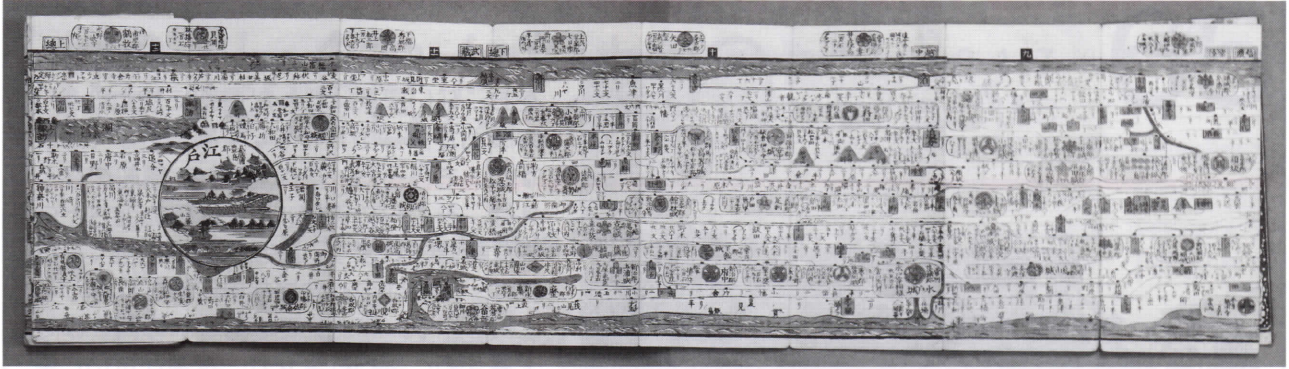


今回は、歴史学習で体験した子どもたちの、「もっと火起し体験をしたい」という声に応えるかたちで講座を実施しました。

参加者は、予想とは反して歴史学習に来た子どもの数はそれほど多くなく、多数を占めていたのは幼児から低学年の子どもたちでした。コツを覚えると小さな子どもでも上手にはずみ車をまわすことはできますが、みな力が足りないために、なかなかその先までいくことができません。そのため、親子で向かい合って取り組み、何度も繰り返し挑戦する姿がみられました。

当館では学芸員を目指す大学生の博物館実習の受け入れも行っていますが、地元出身の学生からは、小学生のときの火起し体験の思い出をきくことが度々あります。それほど時間がたっても強い記憶として彼らの中に残っていたのです。この講座に参加した子どもたちの中にも博物館での記憶が長く残り、その記憶が再び博物館の利用者として戻ってくれるきっかけとなることを期待したいです。





嘉永三年(1850)版 木版色刷(当館蔵)

だいにほんこくじゅんろめいさいきたいせい  
**大日本国順路明細記大成**

この資料は、江戸時代に出版された旅行者用のガイドマップです。持ち歩ける小型の折本で、内容も江戸時代の旅人必携の一冊といえます。

街道を図示した日本地図は、紙幅にあわせてダイアグラム状に大胆なデフォルメが施され、効率よく自分のいる位置から次の宿までの距離などを読み取ることができます。小山市域では日光道中の3宿、「芋ガラ」(新田)・「小山」・「飯田」(間々田)が確認でき、各宿間の距離と駄賃が記されます。小山宿からは日光道中壬生通りも、「ミブヘ三リ」(壬生へ3里)と線で書き加えられています。地図のほかにも、旅立ちに縁起の良い日や悪い日、船酔いや落馬しない方法まで、親切丁寧な内容です。

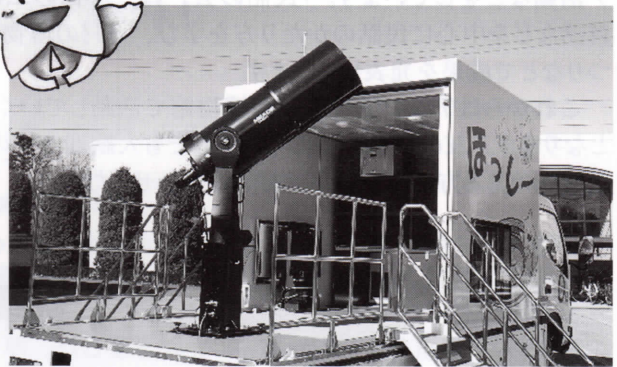
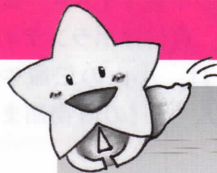
なお、この資料によれば旅に必要な持ち物は、「○衣類○脇指○三尺手拭○頭巾○股引○脚半○足袋○甲掛○下帯○扇子○矢立○手拭○鼻紙○道中記」等々、実に38品目。当時、旅行用に小型の諸道具がつくられていたとはいえ、思いのほか多くの荷物を持って歩いたものです。1か月以上の長旅が当たり前だった江戸時代ならではの思いきや、続いて「長道中ハ勿論四五日ノ旅路トイヘドモ同じ用意アルベシ」とあるので、あるいはこの資料の編者が心配性だったのでしょうか。

後期天体観望会の予定

後期は、下記の予定で天体観望会を行います。

- 10月14日(土) 18:30 ~ 20:00
- 11月11日(土) 18:00 ~ 19:30
- 12月 9日(土) 18:00 ~ 19:30
- 1月13日(土) 18:00 ~ 19:30
- 2月10日(土) 18:30 ~ 20:00
- 3月10日(土) 18:30 ~ 20:00

※事前の申し込みは必要ありませんので、直接、会場の生井公民館(小山市生良1054-2)までお越しください。向かいのJA生井が駐車場です。



コラム 博物館職員雑記

**栗は好物です**

毎朝、電車通勤の車窓から見える青々とした水田や、朝日に照り輝く利根川の水面は、朝のあわただしい気持ちをくつろげてくれます。間々田駅で下車して、博物館までぶらぶら歩いて十数分。毎日季節の移り変わりを肌で感じます。例えば、初夏になると栗の木に花が。まるで極太の毛虫が30センチ程に伸びたような花が、100本単位で伸びてきます。特徴的な香りがあたりを覆い、しばらくするとそのまま抜け落ちて茶色く枯れて積ります。

栃木県ではよくある風景かもしれませんが、西日本出身の私は大変きょっとして、一気に叩き起こされる気分です。そんな日は、朝から仕事のはかどります・・・

(学芸員 尾上仁美)



## 科学の豆知識 「空に飛ばした風船はどこまで飛んで行くの？」



(写真提供 絹義務教育学校)

スポーツイベントでは、よく風船飛ばしをおこないます。澄んだ青空に色とりどりの風船が舞い上がっていく風景をよく見ますね。もちろん、空へ飛ばした風船のゆくえは、その日の天候、とくに風の強さと向きに影響されます。風がそれほど強くなければ、風船はゆるやかな風に流されながら上昇します。計算上では約8kmの高さまで上昇すると言われますが、水滴が付いて重くなるため、雲の上には上っていきません。ほとんどが、その途中でヘリウムガスがゴム膜にある無数の穴から抜けてしぼみ、静かに落下していきます。上空に強い風が吹いていれば、その風に乗って、かなり遠くまで飛んでいくはずですが、日本の上空には、たいがい強い西風が吹いています。だから、風船が飛んでいくのは、東の方向となります。今年度、絹義務教育学校となった延島小学校では、閉校の記念に、学校のシンボルのネムノキの種をつけて風船を飛ばしました。風船は茨城県の笠間や水戸にも届きました。遠くは那珂湊から連絡がありました。太平洋まで飛んでいった風船もあったかもしれませんね。

スポーツイベントでは、よく風船飛ばしをおこないます。澄んだ青空に色とりどりの風船が舞い上がっていく風景をよく見ますね。もちろん、空へ飛ばした風船のゆくえは、その日の天候、とくに風の強さと向きに影響されます。風がそれほど強くなければ、風船はゆるやかな風に流されながら上昇します。計算上では約8kmの高さまで上昇すると言われますが、水滴が付いて重くなるため、雲の上には上っていきません。ほとんどが、その途中でヘリウムガスがゴム膜にある無数の穴から抜けてしぼみ、静かに落下していきます。上空に強い風が吹いていれば、その風に乗って、かなり遠くまで

## 友の会ニュース

### 友の会に新しい学習部会が誕生しました

博物館友の会に、新しく「甲冑部会」と「民話の会」が加わりました。「甲冑部会」は、博物館の甲冑マイスター養成講座の卒業生が、甲冑について学び、着付けボランティア活動などを行っています。「民話の会」は、小山の伝説や昔話などを中心に民話のかたり方を学び、3月の博物館まつりなどで成果を発表しています。

これからは7つの学習部会が博物館で活動していくこととなります。友の会はいつでも・だれでも大歓迎ですので、ご興味のある方は博物館までお問い合わせください。

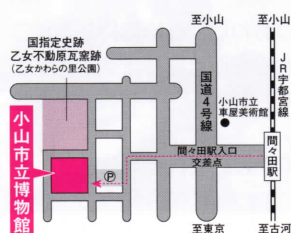


博物館まつりの甲冑試着体験

### 寄贈者芳名

次の方から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- 安井 安彦 (小山市) 写真 12点
- 中嶋 富枝 (小山市) わら製品 つるかめ 1点
- 岡部 美幸 (小山市) 棒ばかり 石製杵臼 他



発行年月日 平成29年8月15日  
 発行 小山市立博物館  
 〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)  
 電話 (0285) 45-5331 FAX (0285) 45-5247  
 H P <http://www.city.oyama.tochigi.jp/kyoikuiinkai/hakubutukan/>  
 印刷 株式会社ダイサン小山